

## 《広報手段》

広報手段としては、下記のようなものを利用する。  
これ以外でも、活動実績が上がってくれば、自然と口伝えで広がる。

- ・ 広報「やちまた」
- ・ 転入時の情報誌
- ・ テラシ  
(戸籍課・児童家庭科・福祉課などの窓口において貰う。)
- ・ 地区の回覧板
- ・ 市のホームページ
- ・ 八街メール

### \* 乳児～高齢者までの生涯学習の小雑誌

市民（特にママさん）目線で、企画・編集した小雑誌。

## 《人材の育成》

今後、行政にお願いするには財政面・人材面など、多方面で限界に近づいていると言われている。

市民が行政のサポートを得ながら、市民自身が主体となって活動する人材の育成が急務である。

現行のボランティア団体や諸団体だけでは、主体となって活動するには少ない。現役世代を終えられた方々に、経歴／経験／知識／知恵を活かした活動を実施して頂きたいと考える。

高齢者の方々には、出来る範疇の活動を実施して頂く。

(特に高齢者は、「社会に役立っている。」「社会に必要とされている」等と感じれば、生きがいとなって積極的に参加して頂ける可能性がある。)

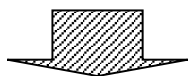


### ・ ボランティアの『コーディネータ』の育成

施策（行事）と講師役のボランティアとを結ぶ人材の養成が必要

主体となって活動するボランティアに、場所の確保／日程調整／参加人員の確保など、行事の企画・運営の全てを任せると続かない。

これまで、行政が担ってきた大部分をコーディネータが行なうが、行政側もコーディネータと連携し、活動をサポートする。



### ・ ボランティアの『人材バンク』の設立

経験者／技能者／有識者など、「誰が」「どのような事が」「いつ頃に出来るのか」を把握しておく必要がある。

コーディネータの方々が、日頃から連絡を取りやすいような工夫をする必要がある。

\* 『コーディネータ』や『ボランティア』になって頂ける方々の動機付けをどのようにするか？など、課題は残っている。

## 《地域通貨》

コーディネータやボランティアの方々に、多少の経費が入れば、責任感も生まれる。全ての施策（行事）を無償とせず、参加者には受益者負担として、多少の参加費を戴く。集まった参加費を使い、『地域通貨』を運用していく。

『地域通貨』は、市内でしか利用出来ないの、市内の経済に貢献出来る。